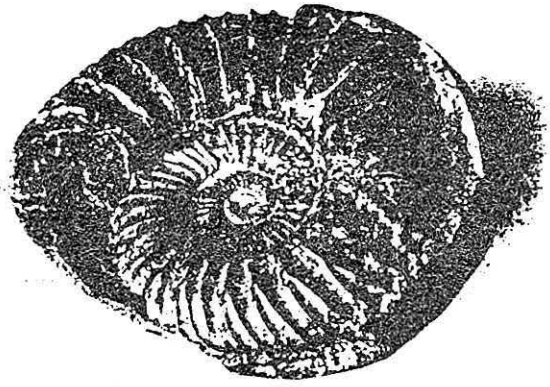
特別展「極地－白い未知の世界へ」特集　その4

ヒマラヤは海の底だった

ヒマラヤは世界の屋根といわれ、インドの北側に壁のようにそびえる山脈です。世界には8000mをこえる山が１３ありますが、その全てがヒマラヤ山脈を中心にしたこの地域に集中しています。今月はヒマラヤ山脈が誕生した歴史を紹介します。

高い山に海の動物の化石

世界の最高峰エベレストの頂上は白い岩でできています。この岩石は石灰岩といって、サンゴ礁などの海にすんでいた動物のからなど、石灰成分の多いものが固まってできた石です。この石灰岩の延長は北のチベット高原にまでのびていて、そこでは、５億年前の海にいたサンヨウチュウなどの化石がとれます。ネパールのカトマンズの町などには、まるい黒い石でできたお守りをみやげ物として売っていることがあります。



ヒマラヤ産アンモナイト

この石はヒマラヤ山中からとれたもので、中にはアンモナイトの化石が入っています。

このようにヒマラヤでは、かつて海にいた動物の化石が数千メートルの高いところから見つかります。つまり、ヒマラヤ地域は昔は海の底だったわけです。

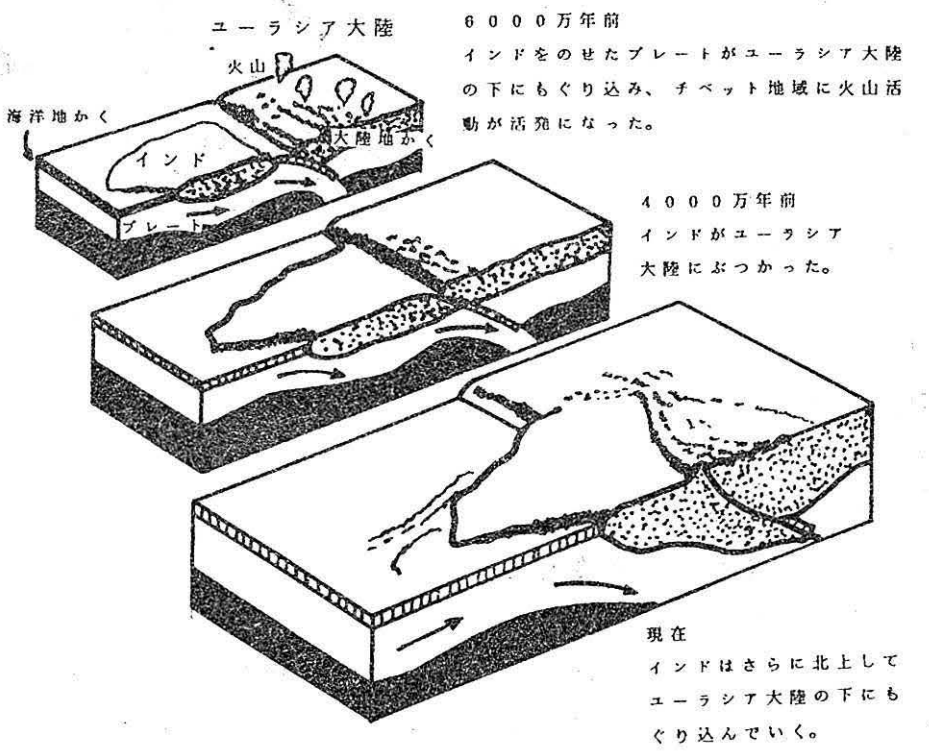
それでは、なぜ海の底がヒマラヤのような高い山になったのでしょうか。

ぶつかりあう陸地

地球の表面は、プレートとよばれる厚さ100キロメートルほどの板でおおわれています。このプレートは大陸をのせて年間に１～数センチメートルのたいへんゆっくりしたスピードで移動しています。

今から２億５千万年ほど昔、地球には、パンゲアとよばれる大きな大陸がひとつありました。その大陸は１億５千万年前ごろからいくつかに分かれて、移動を始めました。その大陸の一片であったインドは、北へ向かってゆっくりとしたスピードで、１億年あまりかけて動いた末に、分かれたパンゲアのひとつであった、現在のユーラシア大陸にぶつかりました。

その後、インドはユーラシア大陸の下にもぐりこみ、大陸を北へと押し続けました。その結果、間にあった海の底にたまっていた砂や泥やその下の深いところにあった岩が押し出されて盛り上がり、世界の屋根ヒマラヤができたのです。（後藤道治）



富山市科学文化センター

〒939　富山市西中野町１丁目８番３１号

電話　（０７６４）９１－２１２３（代表）

平成２年　７月２０日発行

特別展は７月２１日から９月３０日まで開催します。